



ミルヤン ソンベクリ  
 韓国密陽市松栢里の五日場  
 2011年7月20日 全 志英 撮影

### 地理空間学会ニューズレター

#### TOPICS

- ・第4回大会，巡検の報告
- ・総会報告
- ・学会賞受賞者コメント（平岡昭利，堤 純，田中耕市）
- ・リレーコラム「わがまち速報」（藤永 豪）
- ・寄贈図書紹介
- ・学会からのお知らせ
- ・コラム「わたしのフィールドから」（全 志英）

JAGS

## 第4回大会の報告

6月18日(土)，19日(日)に筑波大学において第4回大会が開催されました。大会参加者88名。当日は評議会の後，下記の研究発表が行われ，活発な議論が展開されました。

#### 【一般発表】

橋本 操（筑波大・院）「北海道平取町におけるヒグマ出没の空間的特徴」

福田 綾（筑波大・院）「大分県由布市湯平温泉における観光産業の地域的展開」

小林岳人（千葉県立松戸国際高）「教育困難校の改善の方策についての地理学的検討」

堤 純（愛媛大）「シドニー市における高層建築物の供給過程とその特徴」

Tom Waldichuk (Thompson Rivers University, CANADA)  
 「Reflections on Geography of Japan Field Trips in 2008 and 2010: The Use of Field Journals and the Move to More Student-Centred Learning」

山本健太（九州国際大）「静岡プラモデル製造企業の技術獲得と取引関係：転換企業および新興企業と事例として」

#### 【招待発表】

中村周作（宮崎大）「熊本一酒と肴の文化地理」

#### 【会長講演】

白坂 蕃（帝京大）「イタリアのアルプス山麓における羊の移牧にみる“日常”と“非日常”」

#### 【ポスター発表】

秋元菜摘（東京大・院）「クラスター型コンパクトシティ化による生活関連施設へのアクセシビリティの向上一施設立地と人口分布から見た改善パターンの差異一」

市川康夫（筑波大・院）「長野県松川扇状地扇央部における出作りの展開と特質」

大石貴之・津田憲吾・常木正道・神谷隆太・財津寛裕・巖 婷婷（筑波大・院）「商店経営からみた商業機能の変容一須坂市中心商店街を事例に一」

大谷万里絵（筑波大・院）「地球温暖化が野菜生産地の季節性に与える影響」

栗林 賢・全 志英・磯野 巧（筑波大・院）「須坂市におけるアグリ・ツーリズムの特徴」

齊藤謙司（筑波大・院）「長野県須坂市における鉱山跡地の保存活用の課題」

鈴木春香（筑波大・院）「筑波大学周辺のアパートと地域構造」

大道寺 聡・吉原 遼・福田 綾（筑波大・院）「長野県須坂市における歴史的町並みの形成と展開」

中尾浩子（筑波大・院）「都市河川における河川整備と住民参加型川づくり」

永山いちい（筑波大・院）「住宅団地における高齢者の生活空間—つくば市桜ニュータウンを例に—」

益田理広（筑波大・院）「シュルレアリスム文学からみる都市イメージ—阿部公房『壁』を例として—」

山本敏貴（筑波大・院）「鹿児島市中心部市街地における時間貸駐車場の現状と駐車場の土地利用変遷」

総会終了後、大学会館レストランにて懇親会が開催されました。参加者 53 名。

## 巡検報告

6月19日は大会巡検を行いました。当日は天候にも恵まれ、総勢33名の方にご参加をいただきました。東日本大震災の影響により当初予定していた行程を一部変更せざるを得ませんでしたが、当日は全ての行程を滞りなく遂行することができました。巡検では、「常陸台地における産業と交通」と題し、石岡市・小美玉市において、水上交通から航空輸送に至る、交通の変化とそれに伴う産業の変化を現地を観察しました。

最初に訪れた石岡市中心部では、看板建築と呼ばれる店舗併設式住居が点在する町並みを見学しました。1時間程度中心市街地の中町通りを散策した後、案内者から石岡市では1929年の大火の再建として看板建築が導入されたこと、大火で類焼した地区と類焼を免れた地区とでは店蔵に改築した時期の違いにより景観に差異がみられることなどの説明がありました。近年の日本全国の駅前商店街と同様に石岡市中心部でも空き店舗が目立ち、さらに2005年のつくばエクスプレス開通を受けて鹿島鉄道鉾田線が廃線になるなど、石岡市中心部では流入人口の減少が危惧されます。近年では電線を地中化し、看板建築を活用した町並み整備を進めるなどの対策がとられていました。また、鹿島鉄道の路線跡地はバス専用路線であるBRT(Bus Rapid Transit)として再活用されており、既存の鉄道路線の変化と地域の再活性化の動きの一端を観察しました。

次に訪れた柏原工業団地では、進出企業や陸上輸送網と内陸工業団地の関係について説明がありました。柏原工業団地は、1972年に県と市の工場誘致政策の一環として造成され、常磐自動車道や北関東自動車道への便が良いことを背景に、現在では40社が立地しています。さらに、2010年3月には茨



写真 茨城空港にて(2011年6月19日)

城空港が開港し、2011年3月24日には常磐自動車道石岡・小美玉スマートICが開通するなど、近年ますます物流拠点への近接性が強まっていることが観察できました。続いて、納豆製造において全国的なシェアを誇るタカノフーズや、霞ヶ浦水運の河岸である石岡市高浜に成立した醸造業の一例として味噌蔵の見学を通し、かつての水上交通と産業の歴史についても観察することができました。最後に、2010年3月に開港した茨城県の新しい空の玄関口である茨城空港を見学しました。

本巡検を通じて、水上輸送から陸上輸送、そして空輸へと交通形態の変遷にともない、それぞれの時代に応じた産業の展開および地域の動的な変化を捉えることができたのではないかと考えます。一方で、石岡市中心部における看板建築の一部は地震で損壊を受けており、震災の余波を感じることのできる巡検でもありました。震災後であるにも関わらず、ご協力いただいた関係各所の皆様に厚く御礼申し上げます。

(巡検オーガナイザー：栗林 賢，遠藤貴美子，橋本 操，福田 綾)

# 総会報告

日時:2011年6月18日(土)17:10~17:50

場所:筑波大学筑波キャンパス第一エリア1D棟204教室

参加者:45名

地理空間学会2011年度総会は、2010年6月18日(土)17:10~17:50、筑波大学筑波キャンパス第一エリア1D棟204教室にて開催された。山下清海常任委員長の開会の辞、白坂 蕃会長の挨拶があった。次に山下宗利会員を議長に選出し、福田 綾会員に書記を委嘱した。

## ① 会務報告(山下常任委員長)

### ● 会員数

2010年6月16日現在 256名(一般会員:197名,大学院生会員:50名,学生会員:9名)

### ● 第3回大会の開催

2010年6月19日・20日に神奈川大学横浜キャンパス。参加者数:84名。

### ● 機関誌「地理空間」の刊行

第3巻1号:2010年6月20日。

第3巻2号:2010年12月20日。

内容:論説3編, 展望1編, 研究ノート2編, 調査報告1編, 書評3編

### ● 例会の開催

第7回例会(2010年10月28日)筑波大学筑波キャンパス(参加者41名)

堤 純(愛媛大学):外国でのフィールドワークにおけるIT活用事例

第8回例会(2010年1月24日)筑波大学筑波キャンパス(参加者37名)

横山智(名古屋大):東南アジア大陸部の統計未整備地域におけるフィールド調査

第9回例会(2010年2月23日)筑波大学筑波キャンパス(参加者60名)

池谷和信(国立民族学博物館・総合研究大学院大学):地球をフィールドワークする—21世紀における人と動物と

の関わり方

第10回例会(2010年3月10日)首都大学東京秋葉原キャンパス(参加者28名)

鈴木厚志(立正大学地球環境科学部):アメリカ合衆国における地図学・GIS教育の変遷—20世紀後半のワシントン大学を例に—

小泉 諒(首都大・院生):分析単位地区としての地域メッシュ統計の有用性と可能性—東京大都市圏における分析から—

### ● ホームページおよびメーリングリスト(jags-ml)が運営

### ● ニュースレターの発行

第7号(2010年5月7日), 第8号(2010年10月7日), 第9号(2010年12月27日)

### ● 2011年度学会賞受賞者の決定

選考委員会:小林浩二(委員長), 井田仁康, 矢ヶ崎典隆, 村山祐司(事務局)

### 【学術賞】

張 長平

受賞対象:張 長平著『都市の空間データ分析』古今書院, 240頁, 2010年。

中村周作

受賞対象:中村周作著『行商研究—移動就業行動の地理学—』海青社, 309頁, 2009年。

丸山浩明

受賞対象:丸山浩明編『ブラジル日本移民—百年の軌跡—』明石書店, 350頁, 2010年。

三木一彦

受賞対象:三木一彦著『三峰信仰の展開と地域的基盤』古今書院, 225頁, 2010年。

### 【奨励賞】

久保倫子

受賞対象:①久保倫子「水戸市中心部におけるマンション購入世帯の現住地選択に関する意思決定過程」, 地理学評論, 第81巻, 45~59, 2008年。②KUBO Tomoko:

‘ Japanese housing market and the roles of the condominiums in local cities: A case study of Mito City, Ibaraki Prefecture ’ , *Tsukuba Geoenvironmental Sciences*, Vol. 5, 17-30, 2009. ③久保倫子「幕張ベータウンにおけるマンション購入世帯の現住地選択に関する意思決定過程」, *人文地理*, 第 62 巻, 1~19, 2010 年。④久保倫子「マンションを扱った地理学的研究の動向と課題—日本での研究を中心に—」, *地理空間*, 第 3 巻, 43~56, 2010 年。⑤KUBO Tomoko, ONOZAWA Yasuko, HASHIMOTO Misao, HISHINUMA Yusuke, and MATSUI Keisuke: , ‘ Mixed development in sustainability of suburban neighborhoods: The case of Narita New Town ’ , *Geographical Review of Japan, Series B*, Vol. 83, 47-63, 2010.

花木宏直

受賞対象:①花木宏直「大正期～昭和初期の芸予諸島・大三島におけるマニラ移民と国内出稼ぎの特性—旧岡山村口総地区を事例として—」, *人文地理*, 第 62 巻, 401~425, 2010 年。②花木宏直「近世後期～明治前期における柑橘品種と需要—和歌山市街及び周辺地域を事例として—」, *地理空間*, 第 3 巻, 96~112, 2010 年。

山本健太

受賞対象:①山本健太「ソウルにおけるアニメーション産業の集積と特質—国際分業および労働市場に着目して—」, *季刊地理学*, 第 60 巻, 185~206, 2008 年。②山本健太「上海地域におけるアニメーション産業の集積構造—海外依存型企業の事例を中心に—」, *地理科学*, 第 64 巻, 228~249, 2009 年。

② 決算報告・監査報告(兼子会計委員長代理)

2010 年度の一般会計および特別会計の決算案が提示され、会計監査人(櫻井明久・平岡昭利)より承認を受けたことが報告された。2010 年度決算案は異議なく承認された。

<一般会計>

収入 単位:円

費目	2010 年度予算	決算
会費	594,000	734,000
地理空間学会学術基金より繰り入れ	0	70,089
機関誌販売	24,000	56,000
頁超過料金	300,000	400,000
大会参加費	60,000	55,500
2009 年度からの繰越金	205,969	205,969
2010/4/1 ~2011/3/31 合計	1,183,969	1,521,558

支出

単位:円

費目	2010 年度予算	決算
印刷製本費	1,000,000	865,878
大会運営費	50,000	119,978
通信運搬費	60,000	55,070
消耗品費	10,000	26,744
事務費	10,000	1,680
予備費	53,969	0
繰越金	0	452,208
2010/4/1 ~2011/3/31 合計	1,183,969	1,521,558

<特別会計>

単位:円

収入	予算額	支出	予算額
前年度繰越金	404,920	2010 年度一般会計への支出金	70,089
寄付金	40,000	次年度繰越金	374,831
合計	444,920	合計	444,920

**③ 2011 年度事業計画案（山下常任委員長）**

2011 年度事業計画について、「地理空間」第4巻1号・2号の刊行，第5回大会の開催，例会の開催，ニュースレターの発行，(社)日本地理学会東日本大震災地理教育復興支援事業への協賛ならびに学会会計からの賛助金 10 万円の支出が提案され，異議なく承認された。

**④ 会則の改正**

会則第 5 条について，下記の通りの改正が山下常任委員長より提案された。会則第 5 条の改正は異議なく承認された。

第 5 条(年会費)

[現行] 一般会員 4,000 円，大学院生会員 3,000 円，学生会員 2,000 円

[改正案] 一般会員 4,000 円，大学院生会員 2,000 円，学生会員 1,000 円

**⑤ 2011 年度予算案(兼子会計委員長代理)**

2011 年度予算案について，収支と支出に関する説明がなされた。2011 年度予算案は異議なく承認された。

単位:円

収入		支出	
繰越金	452,208	印刷製本費	900,000
会費	581,000	大会運営費	180,000
学術基金	70,000	震災復興支援事業費	100,000
機関誌販売	80,000	通信運搬費	60,000
頁超過料金	200,000	消耗品費	20,000
大会参加費	40,000	事務費	13,208
		予備費	150,000
2011/4/1 ~ 2012/3/31	1,423,208	2011/4/1 ~ 2012/3/31	1,423,208

**⑥ 次期役員・専門委員会の構成(山下常任委員長)**

次期役員および専門委員会(2010 年 7 月 1 日～2012 年 6 月 30 日)の構成員について提案され，了承された。学会賞選考委員会として，2011 年 7 月 1 日より 2012 年 6 月 30 日の

1 年間の任期で，矢ヶ崎典隆会員を委員長，村山祐司会員を副委員長，井田仁康会員ならびに堤純会員を委員とする案が示された。次期役員および専門委員会は異議なく承認された。

会長:白坂 蕃(帝京大)

会計監査:櫻井明久(駒澤大)，平岡昭利(下関市立大)

常任委員:山下清海(常任委員長，筑波大)，吳羽正昭(庶務委員長，筑波大)，森本健弘(集会委員長，筑波大)，兼子純(会計委員長，筑波大)，手塚 章(編集委員長，筑波大)

評議員:浅見良露(久留米大)，井田仁康(筑波大)，市南文一(岡山大)，伊藤 悟(金沢大)，岡村 治(立正大)，小口千明(筑波大)，小野寺 淳(茨城大)，兼子 純(筑波大)，菊地俊夫(首都大学東京)，吳羽正昭(筑波大)，小林岳人(松戸国際高)，小宮正実(帝国書院)，酒井多加志(北海道教育大)，篠原秀一(秋田大)，平 篤志(香川大)，高橋重雄(青山学院大)，田林 明(筑波大)，椿 真智子(東京学芸大)，手塚 章(筑波大)，中西僚太郎(筑波大)，中村康子(東京学芸大)，仁平尊明(北海道大)，根田克彦(奈良教育大)，松井圭介(筑波大)，村山祐司(筑波大)，森本健弘(筑波大)，矢ヶ崎典隆(東京学芸大)，山下清海(筑波大)，山下宗利(佐賀大)，若本啓子(宇都宮大)

<専門委員会>  
庶務委員会:吳羽正昭(委員長)，大石貴之，小野澤泰子，福田 綾  
会計委員会:兼子 純(委員長)，栗林 賢，水谷千亜紀，横山貴史  
集会委員会:森本健弘(委員長)，山下亜紀郎(副委員長)，市川康夫，遠藤貴美子，鈴木富之，中村文宣  
編集委員会:手塚 章(委員長)，松井圭介(副委員長)，井田仁康，小口千明，小林浩二，櫻井明久，須山 聡，田林明，堤 純，中西僚太郎，橋本雄一，丸山浩明，村山祐司，矢ヶ崎典隆，山下 潤，Thomas C. Waldichuk (書記):斎藤讓司，橋本暁子，橋本 操

学会賞選考委員:(2011 年 7 月 1 日～2012 年 6 月 30 日)  
矢ヶ崎典隆(委員長)，井田仁康，堤 純，村山祐司(事務局)

## 学会賞受賞者コメント

この度、地理空間学会 2009 年度(第 1 回)学会賞の学術賞を受賞された平岡昭利先生と堤 純先生、および奨励賞を

受賞された田中耕市先生から受賞のコメントをいただきました。

### 学術賞 平岡昭利会員（下関市立大）



今回、思いがけなく地理空間学会賞を受賞し大変嬉しく思います。それにつけても、よく飽きもせず毎年のように編著を刊行し続けてきたと、自分でも思いますが、その背景には恩師の織田武雄先生の姿があります。

戦前、軍部に協力し莫大な資金を受けてきた地理学は、戦後、その付けで壊滅的な状態に置かれます。とくに政策に関わった人文地理学の打撃は大きく、京大では、すべての地理の教員が公職追放や辞職に追い込まれました。

軍部との関係を断っておられた織田先生は就職先もなく、戦後になり、やっと 40 歳で母校の京大に職を得られ、すぐにただ一人の教授として地理学講座の復興に乗り出されました。また、1946 年には、わずかに百数十人の会員で西日本地理学会(1948 年人文地理学会に改称)を立ち上げられ、厳しい財政難

のなか、教科書『人文地理』(柳原書店)などの新しい出版物を次々に刊行、人文地理学の復興を成し遂げられ、学会の基礎を作られました。

そのような「典型的な学者」としての気概をもたれる織田先生に、長年じかに接する機会に恵まれた私には、微力ながら何か自分にできることはないだろうかという思いが絶えず頭の隅にありました。他の諸科学に対峙するとき、人文地理学は何ができるのであろうかという、いわゆる「原点」に立ち返りつつ、「離島」や「地図」などマイナーなテーマを細々と掘り起こしながら、他分野に対して「人文地理学」の評価を高めるにはということ念頭に置いて内職のような仕事を続けてきました。

これらの仕事では、志を同じくする多くの方々に協力していただいております。今回の受賞については、多くの執筆者や友人の方々とともに心から喜びたく、また、評価をいただいた地理空間学会に厚く御礼を申し上げます。これを契機にし、さらに地道な研究を進めていきたいと思っております。

最後に地理空間学会が、西の人文地理学会に対し、東の人文地理学のメッカに成長されることを切に祈念しております。

### 学術賞 堤 純会員（愛媛大）



この度は地理空間学会学術賞をいただき、大変光栄に存じます。今回栄える賞をいただいた著書は、私が他大学から右も左もわからずに大学院に入学して以降、先生方のご指導をはじめ院生諸兄らと切磋琢磨しながら学位論文を執筆し、さらにフィールドを広げながら

今日に至るまで取り組んできた研究成果が詰まっています。

この本はまさに、都市地理学者としての私の研究史としての側面もあります。地理空間学会大会時に受賞スピーチの機会をいただいた際には、院生生活はもちろん、フィールドでの様々な出来事をなつかしく思い出していました。

現在、私の主たる研究対象地域は外国(とくに、オーストラリアの都市)に軸足を移しつつあります。今日では、大学院生の頃に比べて調査の時間が思うように取れない現状ゆえに、既存統計を活用したり、GISをはじめとするIT 技術を活用したりと、研究

のスタイルは多少なりとも変わってきています。しかし、自分の目で対象を見て、比較し、考察すること自体は、この本で出会ったいくつものフィールドと大差はありません。資料やデータの所在がわからなかったり、言葉が通じなかったり、今まで経験したことのない全く初めての感覚に支配されたり・・・と、今でも研究

上の困難に直面する機会は多々あります。しかし、そうした局面を打開してくれるのは、いつも決まって、院生時代に身につけた学問上の「勘」のようなものです。これは一朝一夕に身につくものではありません。これまでの先生方からいただきました学恩に改めて感謝の言葉を述べさせていただきます。

## 奨励賞 田中耕市会員（徳島大）

拙著「1990年代の東京23区における都市密度と土地利用の変化(地学雑誌 117-2)」、「中山間地域における公共交通の課題と展望(経済地理学年報 55-1)」、「Recent trends and issues in modern transportation geography in Japan(地理学評論 81-5)」に奨励賞を賜り、誠にありがとうございました。これまでの院生・教員生活を通じて常に叱咤激励して下さいている皆様に深く感謝申し上げる次第です。

私はこれまで、GISを活用して交通と地域の相互関係について研究して参りました。現在は「超高齢化社会での公共交通のあり方」と「環境負荷軽減のための都市づくりと交通政策」をテーマとしており、上述の論文はそこから派生したものです。残念ながら、海外に比較すると日本の地理学界では交通分野の研

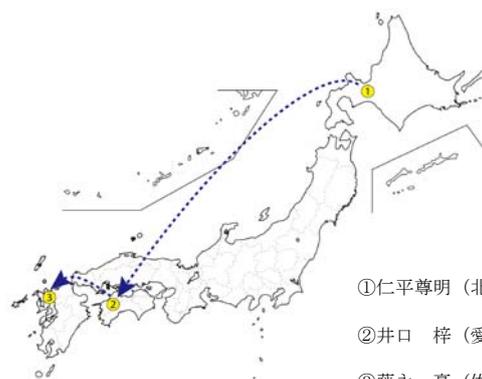
究が盛んではありません。しかし、地域問題には必ず人やモノの移動が関わるものであり、それらの移動を支える交通の役割は小さくはありません。今後も、自身の成果を通じて、地域問題に関わる交通の重要性を訴え続けて参りたいと考えております。

話は変わりますが、東日本大震災によって私の郷里の福島県いわき市も被災しました。福島県浜通りは未だに原発で苦しんでおり、復興までの目処は実質的に立っていません。被災直後は「人としてできること」を最優先に、現地への救援物資の搬送を行っていましたが、暫くの時を経て「研究者として何ができるのか」をあらためて模索し続けています。まだまだ未熟な身ではございますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## リレーコラム「わがまち速報」

### #3 藤永 豪(佐賀大)

佐賀市は、平成の大合併によって、北は脊振山地から南は有明海まで続く、細長い市域を有するようになりました。人口は、2011年8月末現在、およそ23.6万です。佐賀市中心部の都市基盤は、鍋島家35.7万石の城下町に由来します。城下町の北側を長崎街道が通り、大名の参勤交代、オランダ人や中国人の江戸参府に利用され、宿場町としても栄えました。シーボルトや宮本武蔵など、多くの歴史的著名人も長崎街道を往来しています。佐賀城は、「佐賀の乱」の戦火によって焼失し、現在、城跡には佐賀県庁を中心に、県立の博物館、美術館、病院、NHK佐賀放送局などの公共機関が立地しています。さらに、県庁とJR佐賀駅を結ぶ通りとその周辺には、県警本部や検察庁、裁判所、市役所、百貨店、金融機関の本支店が立ち並び、県都佐賀の中心業務地区を形成しています(写真1)。



- ① 仁平 尊明 (北海道札幌市)
- ② 井口 梓 (愛媛県松山市)
- ③ 藤永 豪 (佐賀県佐賀市)

また、佐賀市域も含め、佐賀平野は全国有数の稲作地帯でもあります。それを支えたのが、小河川と「江湖(えご)」と称される有明海から内陸に延びる「みお」を結んだ灌漑用の水路、すなわち、クリーク(地元では、「堀(ほい)」と呼びます)です。しかし、現在では、宅地化や圃場整備の進展のために、その姿は消えつつあります。

佐賀を代表するイベントとしては、毎年11月に、佐賀市西部

を流れる嘉瀬川の河川敷において開催されるアジア最大級の熱気球競技大会、「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」が挙げられます。国内外から多くの競技参加者と観客が訪れ、



- ①脊振山地 ②佐賀県警本部 ③佐賀銀行本店 ④佐賀市役所
- ⑤玉屋（地元資本の百貨店）⑥佐賀商工会館 ⑦佐賀中央郵便局
- ⑧佐嘉神社 ⑨佐賀城内堀

写真 1 県庁から市街地の北(JR 佐賀駅方面)を望む

(2011年9月6日撮影)

夜には競技とは別に、ラ・モンゴルフィエ・ノクチューン(夜間係留)が実施されます。鮮やかなオレンジ色のバーナーの炎に浮かび上がる光景は、幻想的で、一見の価値ありです(写真 2)。



写真 2 バーナーの火に浮かび上がる夜の気球

(2010年11月6日撮影)

## 寄贈図書情報

橋本雄一会員より著書を寄贈いただきました。

### ①橋本雄一編:『GIS と地理空間情報 ArcGIS とダウンロード

データの活用』古今書院, 2011年9月刊, 154頁.

はじめに

#### 第1部 GIS の概念

第1章 GIS と地理空間情報の概要

第2章 測地系と座標系

#### 第2部 GIS によるデータの地図化

第3章 基盤地図情報のダウンロードと地図化

第4章 国勢調査データのダウンロードと地図化

第5章 標準地域メッシュ統計のダウンロードと地図化

第6章 Web 版タウンページを用いたコンビニエンスストアの分布図作成

第7章 国土数値情報のダウンロードと地図化

第8章 紙地図のデジタル化と GIS での利用

#### 第3部 GIS の基礎技術

#### 第9章 座標変換

#### 第10章 空間データの結合

#### 第11章 空間データへの属性データの結合

#### 第12章 検索

#### 第13章 バッファ

#### 第14章 空間データの抽出とオーバーレイ

#### 第4部 GIS による分析事例

#### 第15章 札幌市におけるコンビニエンスストアの立地分析

#### 第16章 札幌市における小売業酒と業態の時空間分析

#### 第17章 札幌市における地質情報と土地利用情報の時空間分析

#### 第18章 GIS と GPS を利用した農業の空間分析

#### 第19章 衛星画像を利用した植生活性度の空間分析

#### 第20章 基盤地図情報による東日本大震災の被災分析

事項索引

ファイル名索引

# 学会からのお知らせ

## <会計委員会からのお知らせ>

### 1. 会費納入のお願い

多くの方々から会費の納入をいただいておりますが、若干名、過年度の会費納入がお済みでない方もいらっしゃいます。未納の方は、「地理空間」第4巻1号に同封した振込用紙でお支払下さい。納付したか不明な方や振込用紙を希望の方は、事務局までお問い合わせ下さい。大学を通じて電子振込みをされる場合には、必ず氏名とご所属先の明記をお願い致します。

[年会費の振込先]

(ア) ゆうちょ銀行への振込(ゆうちょ銀行の振込用紙を使用)

口座記号:00120-5      口座番号:779957

(イ) 他の金融機関の口座からの振込

銀行名:ゆうちょ銀行      金融機関コード:9900

店番:019      店名:〇一九店(セ)ロイチキュウテン)

預金種目:当座      口座番号:0779957

受取人名:チリクウカンカ"ツカイ

(ウ) 年会費

一般会員 4,000 円

大学院生会費 2,000 円, 学生会費 1,000 円

### 2. 「地理空間学会学術基金」の募金について

「地理空間学会学術基金」の募金活動について、会員の皆さま

まの一層のご理解とご援助を賜りますようお願い申し上げます。

[地理空間学会学術基金の内容]

名称:地理空間学会学術基金

目的:地理学の優れた研究者を育成することを目的として、その研究活動の充実を図るための資金として活用する。

募集対象:本学会の活動理念を理解し、本寄付の趣旨にご賛同いただける方。

ご依頼額:1口2万円(何口でも可能です)

[振込方法]

(ア) ゆうちょ銀行への振込(ゆうちょ銀行の振込用紙を使用)

口座記号:00150-3      口座番号:707452

(イ) 他の金融機関の口座からの振込

銀行名:ゆうちょ銀行      金融機関コード:9900

店番:019      店名:〇一九店(セ)ロイチキュウテン)

預金種目:当座      口座番号:0707452

受取人名:チリクウカンカ"ツカイカ"クシ"ユツキキン

※ 基金への寄付をしていただいた方のお名前は、機関誌「地理空間」やホームページ等に掲載させていただきます。

お名前の掲載をご希望でない方は、「匿名希望」とご記入下さい。不明な点は、事務局までお問い合わせください。

## <編集委員会からのお知らせ>

### 1. 第4巻2号発行のお知らせ

「地理空間」第4巻2号は、2011年12月20日(月)の発行を予定しております。

### 2. 超過ページ料金改正について

地理空間学会第3回総会において、超過ページの料金が改正されました。「地理空間」第4巻1号から適用されています。

[改正前] 刷り上がり	12 頁まで	:無料
	13 頁以降	:10,000 円/頁
[改正後] 刷り上がり	12 頁まで	:無料
	13~16 頁	:10,000 円/頁
	17 頁以降	:5,000 円/頁

### 3. 次号以降の投稿について

第5巻1号は、2012年6月20日の発行を予定しております。原稿は随時受け付けており、査読を経て受理された論文から順次掲載して参ります。内容は最新の論争から時事性、トピック性の高いテーマ、丹念な調査に基づく活きのよい事例研究まで幅広く受け付けております。会員皆様の活発な寄稿をお待ちしております。投稿規定や執筆要領については、地理空間学会ホームページもしくは「地理空間」第1巻2号をご覧ください。

### 4. 定期購読のお願い

本学会の活動を知っていただくため、会員の皆さまの研究室や大学・高校の図書館等での「地理空間」の定期購読をご検

討いただけますようお願い申し上げます。ご購入いただける場合には、学会事務局までお知らせ下さい。

## 5. 「地理空間」掲載論文のリポジリー等への掲載について

掲載誌が刊行されてから半年を経過した場合には、大学等の学術リポジリーや著者本人のホームページ等へ自著の論文の掲載を認めます。掲載論文の電子ファイルが必要な方は、学会事務局までご連絡下さい。

---

## コラム「わたしのフィールドから」

全 志英(筑波大・院生)

表紙の写真は、私の調査フィールドである韓国慶尚南道の密陽市山内面の松栢里の五日場です。

韓国には昔から五日場という市が地域ごとにありました。しかし、近年では都市化が進み、スーパーマーケットが増えたため、五日場は減少しています。慶尚南道の密陽市には六つの地域に五日場があり、松栢里の五日場はその一つです。また、地域により五日場が開かれる日が異なります。松栢里の五日場は毎月5・10・15・20・25・30日に開かれます。市で売られている商品に目を向けると、松栢里の五日場では山菜が中心です。夏季には、近隣の農家が収穫したタマネギ、ニンニク、トウモロコシなどを持ち寄り、市で販売します。それ以外に日常生活品、服、靴なども売られます。現在でも韓国の農村地域では、五日場が日常的に利用されています。

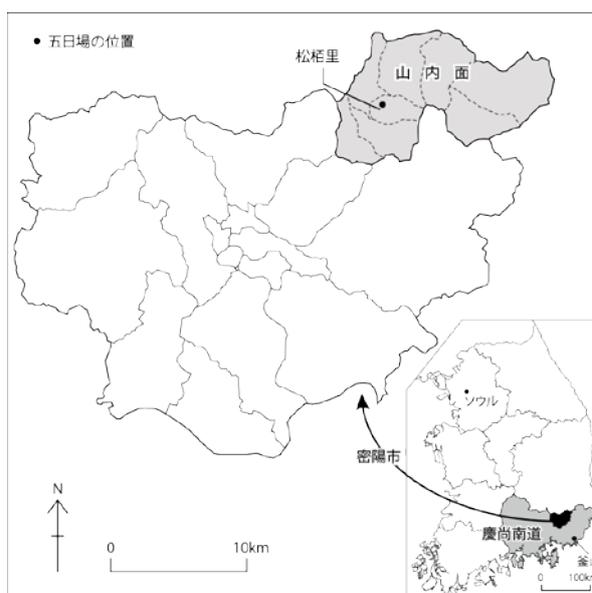


図 密陽市松栢里五日場の位置

### ニュースレター編集係より

節電と猛暑,そして相次ぐ台風により,例年より何かと苦勞の多かった今夏だったと思われま。未曾有の大震災から半年が経ちました。東北地方が厳しい冬を迎える前により一層の復旧・復興が進むよう願うとともに,皆様にとっても実り多き秋となるようお祈り申し上げます。

**JAGS** Japan Association on Geographical Space

## 地理空間学会ニュースレター 第11号

発行日: 2011年10月3日 〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1  
発行所: 地理空間学会事務局 筑波大学大学院地球環境科学専攻内 地理空間学会事務局  
TEL/FAX 029-853-6873  
E-Mail geospace@geoenv.tsukuba.ac.jp